

澤口悟一君の日本漆器の研究に對する授賞審査要旨

澤口悟一君は、商工省東京工業試験所に於て過去二十餘年間漆器に關する實地試験と改良研究とに従事し、熱心な學理の研究と練達せる技能の應用とに依りて、漆工の各方面に涉りて根本的研究を行し、學界及工業界に貢獻せる所甚多し。君の研究報告は東京工業試験所報告に發表したるもの數篇を主とし、之に加ふるに本年「日本漆工の研究」と題する一書を公にし、漆に關する全般の事項に涉りて先輩の研究の成績と自己の研究の成績とを収録せり。今上記の研究報告及著書に依りて、澤口君の業績中の重要なものを擧ぐれば左の如し。

(一) 抑々漆液は、ウルシオールを主成分とし、酸化酵素ラツカーゼを含有するゴム質及含窒素物、水分より成り、其乾固硬化はラツカーゼの作用に依るものなるが故に、ラツカーゼの機能を十分に發揮せしむるには、適當なる溫度と濕度とを要す。即ち溫度は攝氏二十五度乃至三十度にして、濕度は七十五乃至八十五パーセントを適當とす。故に漆工家は漆風呂と稱する特殊の小室内に於て長時間乾固せしむるを常とす。澤口君は自働電聲廻轉風呂と稱する装置を考案して乾固操作に便ならしめたると共に、漆の高溫度硬化法と稱する乾固作を發見して、著しく乾固時間を短縮せしめたり。即ち漆液にフォルマリンとアンモニアとを加へて加熱すれば、ウルシオールとフォルマリンとの化合に依りて

ペーケライトの如き樹脂質を生じて、乾燥を補助するが故に、從來の方法の如く漆風呂を必要とせず、尙ほ其物質にはゴム液を加へて弾性を附與し得るに依り、其應用範圍を擴張し得ることを發見せり。

(二) 漆器の素地は古來木材を以て其材料と爲し來りしが、大氣の乾濕に依りて素地の伸縮變歪を來たし、製品の品位を損すること多かりき。特に漆器を外國に輸出しては其大氣の我邦に比して著しく乾燥せる場合多きに依り、此缺點に苦みしが、近來は木材素地の處理に注意する外に、パルプ又は合成樹脂等を素地とし、又竹を編みて作れる籃胎素地等を使用せり。澤口君の前記高温硬化法は此等の素地には不適當なること勿論なるが、君は素地として金屬を使用することを考案し、之に高温硬化法を應用して、所謂金胎漆器の方法を完成して、毫も伸縮變歪することなき廉價なる漆器を製出せり。其方法はアンチモニーを除き、鐵、アルミニウムの如き金屬板を素地とし、其表面にフォルマリン二十乃至五十パーセントを加へたる生漆を塗り、其上に火山灰の如き礦物質の粉末を散布し、攝氏百五十度内外の溫度に於て乾固し、粗製漆を以て其上に布又は紙を貼りて金屬音を防止すると共に、其質を堅牢ならしめ、而して後普通の下地塗りを施し、更に塗漆して完成するものなり。

(三) 素地の上に漆を施す操作即ち髹漆の順序は、先づ下地を塗り、其次に下塗、中塗及上塗の順序に操作を重ねるものなるが、之に要する材料及漆の種類は、其漆器の種類に依りて一様ならず。澤口君は此等の各操作に就て研究を重ね。(甲) 下地に使用する在來の地粉及砥粉の外に、火山灰の粉末の

優良なるを認め、之を堅地粉と命じて一新材料を加へ、(乙)下地附としては在來の籠附法以外の機械的方法を研究し、(丙)下地に就ては其堅牢度の調査、浸水摩擦試験を行ひ、(丁)又下地の凝塊試験を行ひ、(戊)更に酪素下地の改良方法を發明する等、髹漆作業中の一重要方面たる下地附に就て極めて詳細なる研究を爲せり。上塗に就ても、普通の蠟色塗及春慶塗の如き透明塗に就ても、亦改良方法を案出せり。

(四)君の案出せる寫真高蒔繪法も、亦工業的應用の大なる一方法として注目すべきものなり。即ちクロームゼラチン膜に寫真原板を當て感光せしめたる後、水に浸漬して、高低ある肉合の寫真模様を得、之を原型として石膏の雌型を作り、之に生漆、澱粉、石膏、二酸化マンガン、テレピン油等より成る可塑質の展板を押當て、原型に同じき高低ある模様を作成し、之を漆器面又は素地面に貼附し、乾燥の後、金銀粉を以て高蒔繪を施すものなり。

之を要するに、澤口君は漆に關する各方面に就て遍く研究調査を行ひたるものと云ふべく、東大寺獻物帳に記せる平脱平文の漆器の二様式に就ては從來學者の所論一致せざるものありしが、君は技術家として兩者は同一のものなりとし、平文は平脱文の脱を略したるものとの議論に賛成の意見を公にせし事も、亦本邦美術史の一方面に於ける貢獻と云ふべし。蓋し漆工業は、我邦に於ては天平時代より多年の經驗を重ね、各地各様の發達を遂げ、或は秘傳として他より窺ひ知ることを得ざりしものな

りしが、澤口君は、「此等の方法と雖も萬代不易と稱すべきものに非ずして、技術者の研究に依りて改良進歩せしむべきものである。若し漆工が既に進歩の極致に達したりと稱するならば、そは弱者の聲である」と力説し、此主張に忠實に研鑽を行ひしものといふべし。君は尙ほ研究を繼續せんこと疑なしと雖も、今日までの業績を見るも、實に其貢獻の大なるものあり。